

令和5(2023)年度 病害虫発生予報 第7号

令和5(2023)年10月19日
栃木県農業環境指導センター

天候を考慮した適切な施設管理により病害虫発生を抑えましょう。

予想期間 10月下旬～11月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率、平年比0%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・ 予防を主体に、バルコートフロアブル(RACコードF：M07)等を使用する。
・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比23%：ほ場率、平年比20%：株率)。(－)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並か多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比281%：ほ場率、平年比138%：株率)。(＋)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体に、パレード20フロアブル(F：7)等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト コナジラミ類(黄化葉巻病(TYLCV))

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量はやや少ない(平年比90%：ほ場率、平年比8%：葉率)。(－)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。発生が見られた場合アニキ乳剤(I：6)等を散布する。
・ 黄化葉巻病の発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ 黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [令和5\(2023\)年植物防疫ニュースNo.8](#)、[防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きゅうり コナジラミ類(退緑黄化病(CCYV))

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量はやや多い(平年比163%：ほ場率、平年比249%：株率)。(＋)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込み。(＋)

- (3) 対策
 - ・ 密度が増加すると防除が困難になるため、ほ場内に黄色粘着板を設置し、早期発見・早期防除を行う。
 - ・ 薬剤感受性の低下を避けるため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・ ハウスの開口部に 0.4mm 目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
- (4) 備考
 - ・ タバココナジラミは退緑黄化病(CCYV)を媒介する。 [タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 野菜類（いちご、ねぎ等） ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・ 10月第1半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は平年並。(±)
 - ・ 現在の発生量は、ねぎではやや多く、いちごでは多い。(＋)
 - ・ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込み。(＋)
- (3) 対策
 - ・ 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 - ・ 幼虫の齢期が進むと被害が大きくなり薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
- (4) 備考
 - ・ [令和5\(2023\)年植物防疫ニュース No. 8](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	やや多	多	にら	白斑葉枯病	少	少
トマト	灰色かび病	少	少	にら	アザミウマ類	平年並	やや多
きゅうり	べと病	やや少	やや少	野菜類	オオタバコガ	やや多	多
ねぎ	ハモグリバエ類	多	多	きく	ハダニ類	やや少	平年並
ねぎ	シロイチモジヨトウ	多	多				

秋の病害虫防除対策

○水稻 縞葉枯病

- ・ 縞葉枯病が発生したほ場の再生稲（ひこばえ）は、媒介虫のヒメトビウンカの増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。早めに丁寧な耕起を行いましょう。

○麦類 種子伝染性病害

- ・ 近年、オオムギ斑葉病やムギ類黒節病等の種子伝染性病害が発生しています。種子消毒を行うとともに、は種は適期に行いましょう。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・ 外来害虫である本種の国内における確認報告が相次いでおり、10月17日現在、31道府県で発生が確認されています。栃木県での発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して、本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合は、お近くの農業振興事務所もしくは農業環境指導センターへ御連絡ください。
- ・ [注意喚起チラシ](#)を当センターHPに掲載中です。

○なし 黒星病、りんご 斑点落葉病・褐斑病

- ・ 病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行いましょう。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょう。

○令和5年11月から令和6年1月まで、栃木県の「農業危害防止運動期間」を実施します。農業は適正に管理し、容器のラベルをよく読んで使用し、農薬による事故等の発生を防止しましょう。

1か月気象予報（予報期間10月21日から11月20日 10月19日気象庁発表）

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に2週目は、気温がかなり高くなる可能性があります。
- ・ 高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20%	30%	50%
降水量	40%	40%	20%
日照時間	20%	40%	40%



NOUGYO_KSC_TOCHIGI

Instagram 農作物病害虫図鑑@とちぎ

センター所蔵の病害虫画像をInstagram上で公開しています。

主要病害虫から珍しい種まで、定期的に更新中！

#栃木県#病害虫図鑑 検索&フォローよろしくお願いします！

詳しくは農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX (旧ツイッター)「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

